

Institut national des langues et civilisations orientales
LLCE de japonais – Troisième année
L3 S5

VERSION
(JAPA320c)
Textes et vocabulaire

Année 2021-2022

Nathan Béridot
Guibourg Delamotte
Benjamin Giroux
Yannick Maufroid
Nicolas Pinet
Élise Voyau

Un outil de référence : *Les Consignes générales au traducteur* (brochure disponible sur Moodle)

Livres dont vous aurez besoin pour mener à bien votre travail :

- Un dictionnaire de langue française
- Le Bescherelle
- *Le Bon Usage de la langue française*
- Un dictionnaire unilingue japonais (par exemple le *Kokugojiten* 国語辞典 des éditions Iwanami, le *Meikyôkokugojiten* des éditions Taishûkan ou le *Kôjien* 広辞苑 des éditions Iwanami).
- Un dictionnaire bilingue japonais-français (par exemple le *Dictionnaire Standard japonais-français* des éditions Taishûkan).

Quelques liens vers des dictionnaires divers :

<http://www.wordreference.com/>
<http://www.edrdg.org/cgi-bin/wwwjdic/wwwjdic?1C>
<http://www.crisco.unicaen.fr/des/>
<http://www.cnrtl.fr/>
<http://gogen-allguide.com/>
<http://www.kanjijiten.net/index.html>
<http://jisho.org/>
<https://kotobank.jp>

Pour en savoir plus sur le métier de traducteur :

La tentation de la France, la tentation du Japon, sous la direction de Michael Ferrier, éditions Picquier, 2003, et plus particulièrement : « Les coulisses de la traduction », p. 193-232.

Responsables du cours :

Semestre 1 : Guibourg Delamotte

Semestre 2 : Alexandre Roy

Calendrier de l'année 2021-2022 :

http://www.inalco.fr/sites/default/files/asset/document/cal_univ_2021-2022_ca_29-01-2021.pdf

DÉROULEMENT DES COURS ET MODALITÉS DE CONTRÔLE

DÉROULEMENT DES COURS

Les étudiants doivent être inscrits pédagogiquement dans l'un des groupes. Ils ne peuvent assister qu'aux cours du groupe auquel ils sont inscrits.

Les effectifs de chaque classe sont divisés en deux (groupe 1, groupe 2), qui rendront les textes alternativement.

12 textes sont proposés, sur des sujets variés. Le texte 1 est traduit par tous les étudiants pendant la première séance, et corrigé lors de la deuxième séance.

Dès cette deuxième séance, les étudiants du groupe 1 rendent tous la traduction du texte suivant (texte 2). En semaine 3, les étudiants du groupe 2 remettent leur traduction du texte 3 et la traduction du texte 2 est corrigée en cours.

Le cours consiste en la correction collective du texte après le travail individuel de chacun. L'ensemble des étudiants doit ainsi avoir lu et compris chaque texte pour pouvoir participer et bénéficier du cours.

Les enseignants mettent sur Moodle un corrigé du texte.

MODALITÉS DE CONTRÔLE

Le CONTRÔLE CONTINU est le régime par défaut.

Un justificatif sera demandé en janvier, au moment des examens, à ceux qui n'auraient pas rempli les conditions du contrôle continu et demanderaient à relever du régime final (possible en double cursus, pour raisons professionnelles ou de santé...).

Le contrôle continu compte pour 50 % de la note. L'examen sur table, pour 50 %. Les épreuves de rattrapage seront communes aux deux semestres en juin.

L'examen des sessions de janvier et de juin sera une version sur table, sur un texte inconnu.

CALENDRIER

- Texte 1 : travaillé en cours lors de la première séance (semaine du 13 septembre)
- Texte 2 : à rendre dans la semaine du 20 septembre
- Texte 3 : à rendre dans la semaine du 27 septembre
- Texte 4 : à rendre dans la semaine du 4 octobre
- Texte 5 : à rendre dans la semaine du 11 octobre
- Texte 6 : à rendre dans la semaine du 18 octobre
- Texte 7 : à rendre dans la semaine du 25 octobre
(interruption des cours pour la Toussaint)
- Texte 8 : à rendre dans la semaine du 8 novembre
- Texte 9 : à rendre dans la semaine du 15 novembre
- Texte 10 : à rendre dans la semaine du 22 novembre
- Texte 11 : à rendre dans la semaine du 29 novembre
- Texte 12 : à rendre dans la semaine du 6 décembre

Vocabulaire du texte 1

鍵	かぎ	
塗る	ぬる	peindre
木製	もくせい	木で作ってあること。
真鍮	しんちゅう	laiton
見慣れた	みなれた	familier, ère
素材	そざい	matériau
のっぺらぼう		plat(e), lisse
(スカートを) 穿く	スカートを) はく	
形跡	けいせき	trace
～秒	～びょう	seconde(s)
ややがさついた		légèrement rugueux
手触り	てざわり	toucher
板	いた	planche, plaque
凹み	へこみ	cavité, bosse
歪み	ゆがみ	déformation
あらまほしき	あってほしい、好ましい	
誰	だれ	
手応え	てごたえ	réponse
富井省三	とみいしょうぞう	nom du personnage principal
絲山秋子	いとやまあきこ	
末裔	まつえい	descendant(s)
新潮社	しんちょうしゃ	

Source :

絲山秋子著、『末裔』、新潮社、東京、2014 年より

Texte 1

鍵穴はどこにもなかった。

最近の住宅にはあまりない、白いペンキを何度も塗り直した木製のドアはいつもと何ら変わりはない。年季の入った真鍮のドアノブも見慣れた通りだった。

しかし、ドアノブを支える同素材のプレートはのっぺらぼうで、丸の下にスカートを穿いたかたちの鍵穴は形跡さえなかった。鍵でつついても、指でなぞっても、しゃがんで見直しても、二、三步後ろに下がっても、五秒目を閉じて、ややがさついた手触りの真鍮の板には凹みも歪みもなかった。

鍵穴があらまほしき場所にはないのだった。

そんなばかなことがあるものか。

二、三度チャイムを鳴らしてみたが、もちろん誰が出てくるわけでもない。ドアノブをつかんで前後にゆすぶってもことごとく鍵のかかっている手応えがあるばかりだった。

もちろん鍵は手の中にある。しかしその鍵が受け入れられない。

鍵穴だけが消えてしまったのだった。

富井省三は、閉め出された。

Vocabulaire du texte 2

→ Traduire jusqu'à : « 社会は大きな変革を遂げた。 »

誰	だれ
劣る	おとる
蓄積	ちくせき
分析	ぶんせき
対策	たいさく
政策	せいさく
庶民	しよみん
富裕	ふゆう
財閥	ざいばつ
象徴	しょうちょう
株	かぶ
報酬	ほうしゅう
巨額	きょがく
農地	のうち
華族	かぞく
遂げた	とげた

Source :

Tachibanaki Toshiaki [橘木俊詔], « Okanemochi ha dareka » [お金持ちは誰か], *Asahi Shinbun* [朝日新聞], 27 janvier 2005, p. 16.

Texte 2

お金持ちは誰か

橘木俊詔

日本では貧富の格差が拡大中である。では貧者は誰であるか、富者は誰であるかに関心に移る。貧者に関しては、他の先進国よりは劣るが、研究の蓄積はある。貧者の現状を分析する価値は高い。貧者対策の政策論議の資料として役立つからである。逆に富者に関して研究はほとんどなく、むしろどうすればお金持ちになれるかといった教則本の出版は氾濫(はんらん)している。庶民は藁(わら)をもつかむ思いでお金持ちになりたいのだろうか。

*

日本の富裕者を明治以来から現在まで調査してみた。どこの国でもいつの時代でもお金持ちは存在していた。第2次世界大戦以前の日本では、富裕階級は誰だったかといえば、それは産業資本家と大土地所有者に代表される。財閥で象徴されるように、いくつかの企業を保有する資本家と経営者は、株の配当と役員報酬によって巨額の所得を稼得(かどく)していた。農地は一部の地主によって大量に保有されており、それらの人にとって地代による所得は巨額であった。

戦前の日本は資本家と労働者、地主と小作人で区分されるように、いわば階級社会であり、しかも、華族、士族、平民といった身分社会でもあった。貧富の格差が非常に大きく、前近代社会の特色として理解してよい。しかし、財閥解体、農地解放などの政策が戦後のGHQによって導入され、民主化路線を歩むことになり、社会は大きな変革を遂げた。

Vocabulaire du texte 3

アメ横	あめよこ (quartier de Ueno)
商店街	しょうてんがい
根雪	ねゆき
吹く	ふく
放置	ほうち
整理	せいり
拾う	ひろう
酔っ払う	よっぱらう
介抱	かいほう
アポロ	Ici, surnom donné à un personnage
焼き鳥	やきとり
串	くし
刺す	さす
焼き栗	やきぐり
不景気	ふけいき
気前	きまえ
地域	ちいき
限定	げんてい
名士	めいし
天才	てんさい (ici, surnom donné à un personnage)
錆びる	さびる
配達	はいたつ
整列	せいれつ
息	いき
棒	ぼう
夜気	やき
伸ばす	のばす

Source :

ISHIDA Ira [石田 衣良], « Yoru wo mamoru [夜を守る] », Bunshun Bunko [文春文庫], 2014, 55 頁。

Texte 3

グリーンハウス

その夜四人がパトロールにでたのは、午後七時すぎだった。いつものように最初の仕事はアメ横の商店街のあちこちに根雪のように吹きだまつた放置自転車の整理である。おそろいの青いベレー帽をかぶった若い男たちが、毎晩のように自転車を片づけ、通りに落ちてゐるゴミを拾い、酔っ払いを介抱するのだ。

アメ横の商店街でも、アポロたちのガーディアン活動はゆつくりと認められ始めていた。夜の街を歩いていると、焼き鳥やクレープ、串に刺したメロンや焼き栗などのさし入れをもらったりする。不景気でも、下町の商店主たちは気前がよかった。昼間はそれぞれ別な仕事をもつ四人は、地域限定の名士の気分をすこしだけ楽しんでた。

天才が錆びた配達用自転車を整列させると、白い息を棒のように夜気に伸ばして笑った。

Vocabulaire du texte 4

番傘	ばんがさ	parapluie en bambou et papier japonais
見受ける	みうける	supposer, croire comprendre
お尋ね	おたずね	s'enquérir, venir poser une question
折り目正しく	おりめただしく	avec courtoisie
小腰をかがめる	こごしをかがめる	courber la tête, se baisser (salutation)
気色ばむ	けしきばむ	s'énervier, se mettre en colère
連れだってくる	つれだってくる	accompagner
稼業	かぎょう	affaires, commerce

Noms propres :

藤純子	ふじ じゅんこ	(actrice)
高倉健	たかくら けん	(acteur)
山本麟一	やまもと りんいち	(acteur)
加藤泰	かとう たい	(réalisateur)

『緋牡丹博徒 花札勝負』 ひばたんばくと はなふだしょうぶ *La pivoine rouge : le jeu des fleurs* (titre de film)

Source :

上野昂志 『日本戦後 60 年』 作品社、2005 年
Ueno Kōshi, Nihon sengo 60 nen (Japon, 60 ans d'après-guerre), Tokyo : Sakuhin sha, 2005.

Texte 4

雨のなかを、番傘をさした藤純子が歩いてくると、反対側から急ぎ足でやってきた旅姿の高倉健が、行きかけた足を止め、小腰をかがめて「ご同業さんとお見受けしまして、お尋ね申します」と、折り目正しく藤純子に声をかける。その尋ねた名が、対立する組だったので、連れだつてきた山本麟一が思わず気色ばむのを、藤純子が押さえて、親切に道順を教える……。加藤泰の『緋牡丹博徒・花札勝負』（六九年、東映）の

一場面だが、そんな細部に、このような稼業の男と女のさりげない、それでいて運命的な出会いが浮かび上がつてくるところに、やくざ映画の得もいわれぬ魅力があつたのだが、そのような映画が東映を中心に量産されるようになったのは、日本の映画産業がテレビに追われて危機に陥つたからである。

やくざ映画

Vocabulaire du texte 5

→ Traduire à partir de « これはあなたにどうやって説明したものか。 » jusqu'à la fin.

基本的	きほんてき
電気信号	でんきしんごう
幼い	おさない
影響	えいきょう
望む	のぞむ
蘇る	よみがえる
蘇生	そせい
処置	しよち
傷つく	きずつく
奇跡	きせき
虚構	きょこう
幸せ	しあわせ
技術	ぎじゅつ
悟る	さとる

Source :

藤田祥平『手を伸ばせ、そしてコマンドを入力しろ』（早川書房・2018年）

Texte 5

この小説は、基本的に、電気信号についてのお話である。
私は幼いころ、人間は、彼自身の運命を完全にコントロールできるものだと思っていた。あらゆる出来事が彼の意のままになるのだと思っていた。たぶん、ビデオゲームと小説の影響だったのだろう。

虚構の世界においては、べつに誰も死ななくてもかまわないし、全員が死んでもかまわない。重要なのは、それが完結することだ。そうすれば、私たちは運命に落とし前をつけられる。さまざまなことに意味があり、この生は無駄ではなかったと感じられる。これこそが、フィクションの魔法だ。

そして、私たちの生もそういうものだろうと、私はずっと信じていたのだ。
これをあなたにどうやって説明したものか。

望むなら、あなたは誰だって蘇らせることができる。蘇生することができる。誰かが傷ついたら、しかるべき処置をとって、治してやればいい。誰かが死んだなら、すばらしい奇跡をこしらえて、生き返らせてやればいい。そうすれば、その人は永遠に、いつまでも、虚構の世界のなかで幸せに笑っているだろう。

私は、できることなら、この小説をそういう話にしたかった。誰も傷つかず、誰も死なない、そういう世界を作ってみたかった。しかし、そうはならなかった。私の技術が不足していたのかもしれないし、変えてはならないことや、決して変えられないことを、いろいろと悟ったからなのかもしれない。

仕方がない。そういうものだ。また機会はあるだろう。

そろそろ、私の運命に落とし前をつけさせてもらおう。小説を始めよう。

Vocabulaire du texte 6

→ Traduire jusqu'à « 一方、左派系ハンギョレ新聞は22日付の朝刊1面で、「覆された正義」との見出しで判決を疑問視した。 ».

政府	せいふ	控訴	こうそ
損害賠償	そんがい ばいしょう	促した	うながした
元慰安婦	いあんふ	京郷新聞	きょうこうしんぶん
訴え	うったえ		
却下	きゃっか	反人権犯罪	はんじんけん はんざい
中央地裁判決	ちゅうおうちさい はんけつ	免罪	めいざい
評価	ひょうか	賠償責任	ばいしょう せきにん
妥当	だとう	地裁判決	ちさいはんけつ
文在寅	Moon Jae-in	正反対	せいはんたい
保守系	ほしゅけい	判断	はんだん
朝鮮日報	ちようせんにつぽう	裁判官	さいばんかん
社説	しゃせつ	個人攻撃	こじん こうげき
行為	こうい	原告	げんこく
裁判所	さいばんしょ	支援	しえん
裁かれない	さばれない	人権の歴史	じんけんのれきし
「主権免除」	しゅけんめんじょ	後退させた	こうたいさせた
「国民感情」	こくみんかんじょう	恥として	はじとして
国際法	こくさいほう	記憶	きおく
普遍的な論理	ふへんてきなろんり		
従った	したがった		
指摘	してき		
「合理的だ」	ごうりてきだ		
影響	えいきょう		
東亜日報	とうあにつぽう		
材料	ざいりょう		
防いだ	ふせいだ		
中道	ちゅうどう		
韓国日報	かんこくにっぽう		
探す	さがす		
契機	けいき		
覆された正義	くつたえされた せいぎ		
疑問視	ぎもんし		
上級審	じょうきゅうしん		

Source :

読売新聞、2021/04/23。

<https://www.yomiuri.co.jp/world/20210423-OYT1T50064/>

Texte 6

元慰安婦判決 韓国二分…現地メディア 「合理的」「歴史無視」

【ソウル＝上杉洋司】日本政府に損害賠償を求めた韓国人元慰安婦の訴えを却下した21日のソウル中央地裁判決について、韓国内で評価が二分している。韓国メディアでは保守系紙が妥当とする一方、文在寅(Moon Jae-in)政権に近い左派系紙などは厳しく批判している。

保守系の朝鮮日報は22日付の社説で、判決が国家の行為が他国の裁判所では裁かれない「主権免除」の原則の適用を認めたことについて、「国民感情ではなく、(国際法の) 普遍的な論理に従った」と指摘。2015年の慰安婦合意を有効と判断した点についても、「合理的だ」と評価した。

日韓関係への影響について、東亜日報は「悪化する材料が増えることを防いだ」と評価する韓国政府関係者の声を伝えた。中道の韓国日報は社説で、判決について「慰安婦問題を外交的に解決するよう注文を付けた」と解説し、韓国政府に対応を求めた上で、「日本政府も(解決)方法を探す契機と見なしてほしい」とした。

一方、左派系ハンギョレ新聞は22日付の朝刊1面で、「覆された正義」との見出しで判決を疑問視した。社説では「歴史を無視した判決」と断じ、「上級審を通じ、今回の判決が正されることを望む」と原告側に控訴を促した。京郷新聞も「反人権犯罪の国家責任を免罪した判決だ」と批判的に報じた。

日本政府の賠償責任を認めた1月の地裁判決とは正反対の判断を示した裁判官への個人攻撃も見受けられる。原告の元慰安婦らを支援する市民団体は21日の判決後、「東北アジアの人権の歴史を後退させた裁判官の名前は、恥として記憶されるだろう」とする声明を発表した。

Vocabulaire du texte 7

阿木燿子	あきようこ
鈴木	すずき
隠れて	かくれて
無邪気な	むじゃきな
遙かな	はるかな
宇宙	うちゅう
澄んで	すんで
昇る	のぼる
幸福	しあわせ (ateji)
誰か	だれか
木曳れ陽	こもれび
眩しい	まぶしい
夢	ゆめ
頃	ころ
靴	くつ
踊り場	おどりば
懐しく	なつかしく
振り向く	ふりむく

Source :

H2O, « Omoide ga ippai » [思い出がいっぱい], Kitty Records, 1983.

Vidéo live du groupe avec paroles en sous-titres :

<https://communs.net/vid/omoide-ippai-1983.mp4>.

Autre version de la chanson (audio) :

<https://communs.net/vid/omoide-ippai-nhk.mp3>.

Texte 7

思い出がいっぱい

1983

歌：H2O - 作詞：阿木燿子 - 作曲：鈴木キサブロー

古いアルバムの中に
隠れて思い出がいっぱい
無邪気な笑顔の下の
日付けは遙かなメモリー

時は無限のつながりで
終りを思いもしないね
手に届く宇宙は 限りなく 澄んで
君を包んでいた

※大人の階段昇る
君はまだシンデレラさ
幸福は 誰かがきっと
運んでくれると 信じてるね
少女だったといつの日か
想う時がくるのさ

キラリ木曳れ陽のような
眩しい 思い出がいっぱい
一人だけ横向く 記念写真だね
恋を夢見る頃

ガラスの階段降りる
ガラスの靴シンデレラさ
踊り場で足を止めて
時計の音 気にしている
少女だったと懐しく
振り向く日があるのさ

(※くり返し)

少女だったと懐しく
振り向く日があるのさ

Vocabulaire du texte 8

美菜絵	みなえ（人名）
玲二	れいじ（人名）
睨む	にらむ
～に違うない	～にちがいない
事情	じじょう
不機嫌さ	ふきげんさ
滲む	にじむ
様子	ようす
差し障り	さしさわり
深見家	ふかみけ
往復する	おうふくする
苦笑する	くしょうする
嫉妬深い	しつとぶかい
揃う	そろう
狼	おおかみ

Source :

東野圭吾『ダイイング・アイ』光文社文庫、2011、p. 6.

Texte 8

おかげで美菜絵は、こんな夜中に自転車で走らねばならなくなってしまった。心配性の玲二は、きっと今も時計を睨んでいるに違いない。もちろん事情は電話で伝えている。

「雨が降るかもしれないから、なるべく早く帰ってきたほうがいいよ」

電話に出た夫の声には、不機嫌さがありありと滲んでいた。玲二は以前から、夜に美菜絵が出かけていくのが気に食わない様子だ。家事に差し障りがあるから、というような理由ではない。深見家のレッスンは八時からであり、美菜絵としては夕食を終え、時には後片づけも済ませてから家を出ても、ゆっくり間に合う。玲二は単純に、女一人が自転車で夜道を数キロ往復するという点を心配しているのだ。美菜絵自身が苦笑してしまうことだが、嫉妬深い彼は、世の中のすべての男性が二十九歳になる自分の妻を狙っていると思い込んでいるようだった。また、世の中の殆どの男が、時と場合が揃えば狼になると信じてもいた。

Vocabulaire du texte 9

行なわる	おこなわる	avoir lieu, prendre place
見出し	みだし	gros titre
空前の人出	くうぜんのひとで	une foule sans précédent
湘南海岸	しょうなんかいがん	la côte de Shōnan
埋まる	うまる	être enterré, rempli
嘘	うそ	mensonge
貴重	きちょう	précieux
客観	きゃっかん	objectif

Source :

名取洋之助『写真の読み方』岩波新書、1989 年

Natori Yōnosuke, *Shashin no yomikata* (Lire la photographie), Tokyo : Iwanami shinsho, 1989.

Texte 9

1 写真は正確か

「顔写真」はなぜ使われる

新聞に「両党首会談行なわる」と見出しが出れば、二人の党首が会談している写真が、紙面に載ります。湘南海岸は空前の人出という、日曜の夕刊のヘッドラインとともに、人、人、人でまっ黒に埋まった湘南海岸の写真が出ます。この場合、両党首会談の写真も、湘南海岸の写真も、読者に、写真によって新しい知識を与えようと、新聞が載せているわけではありません。記事に嘘はない、これこの通り、写真の通りですという意味で載せているのです。それでなければ、なにもいまさら、見なれた政治家の顔など見せる必要も、毎度おなじみの海岸風景に、貴重な紙面をさく必要もないわけです。写真は新聞記事の正確さと、客観性の証明であるといってもよいでしょう。

Vocabulaire du texte 10

凶悪犯罪	きょうあくはんざい
覚せい剤	かくせいざい
無罪	むざい
訴え	うったえ
内容	ないよう
被告人	ひこくにん
残留	ざんりゅう
所持	しよじ
無免許	むめんきよ
違反	いはん
通報	つうほう
被害者	ひがいしゃ
全治	ぜんち
傷害	しょうがい
負う	おう
脅す	おどす
強奪	ごうだつ
損壊	そんかい
厳罰	げんばつ
懲役	ちようえき
妥当	だとう
有罪	ゆうざい
執行猶予	しっこうゆうよ
岐阜	ぎふ
地裁	ちさい（＝地方裁判所 ちほうさいばんしょ）
判決	はんけつ
奪い取る	うばいとる
異常	いじょう

Source :

MAGAWA Kiyoshi [間川 清], « Saibankan hijōshikina hanketsu 48-sen [裁判官・非常識な判決 48 選] », Gentōsha [幻冬舎], 2016, 16-17 頁。

Texte 10

凶悪犯罪を起こしても、覚せい剤を使用していれば無罪

被告人は、外国人で日本に不法に残留し、覚せい剤を所持して使用したうえ、無免許かつスピード違反で自動車を運転。5件もの交通事故を起こしながらも警察に通報せず、さらに3名の被害者に最高で全治2か月の傷害を負わせ、しかも自動車の所有者をナイフで脅したうえ、他人の自動車を合計3台も強奪し、損壊させている。厳罰にするべきであり懲役10年が妥当である

訴えの内容**判決**

不法残留と覚せい剤を所持して使ったことは認め有罪とするが、それ以外は全て無罪。よって、懲役2年執行猶予4年とする

● 岐阜地裁平成20年3月17日判決

43分間の出来事

本件は、日本に不法に残留していた外国人の被告人が、覚せい剤を使用し、運転していた車で次々と事故を起こし、さらに乗っていた車から降りて近くの自動車の運転手をナイフで脅し、手当たり次第に自動車を奪い取ったという事件です。

判決文から、この事件の異常さがよくわかります。

Vocabulaire du texte 11

大統領	だいてうりょう	「クアッド」 Quad
就任	しゅうにん	ブリンケン国務長官 Blinken
外交・安全保障政策	がいこう・	こくむちょうかん
あんぜんほそう	せいさく	オースティン国防長官 Austin
念頭	ねんとう	こくぼうちょうかん
方針	ほうしん	訪れ おとすれ
明確	めいかく	外務・防衛担当閣僚協議（2 プラス 2）がいむ・ぼうえいたん
打ち出した	うちだした	ろうかんりょうきょうぎ
第一主義	だいいちしゅぎ	開催 かいさい
前政権	ぜん せいけん	実施し じっし
方針転換	ほうしん てんかん	日米同盟 にちべいどうめい
図り	はかり	戦略 せんりやく
国際協調路線	こくさいきょうちょう ろせん	核に かくに
回帰	かいき	据える すえる
鮮明	ちょうめい	
「助走期間」	じょそうきかん	
課題	かだい	
隠れ	かくれ	
連携強化	れんけいきょうか	
勝ち抜く	かちぬく	
議会演説	ぎかいえんぜつ	
習近平国家主席	シュキンペイ こっかしゅせき	
XiJinpin		
頻繁	ひんぱん	
登場させて	とうじょう	
対抗意識	たいこういしき	
公表	こうひょう	
国家安全保障戦略	こっかあんぜんほしょうせんりやく	
(NSS)		
指針	ししん	
「唯一の競争相手」	ついいつのきょうそうあいて	
位置	いち	
併記して	へいきして	
捉えて	とらえて	
傾注	けいちゅう	
主催	しゅさい	
多国間の首脳会合	たこくかん の しゅのうかいごう	
選択	せんたく	

Source :

毎日新聞、2021/4/30。

Texte 11

対中強硬と多国間協調 バイデン政権の本気度は 就任 100 日

バイデン米大統領は 29 日、就任から 100 日目を迎えた。外交・安全保障政策では、中国を念頭にインド太平洋地域を最も重視する方針を明確に打ち出した。米国第一主義を進めた前政権からの方針転換を図り、国際協調路線への回帰も鮮明にしている。一方で「助走期間」が終わり、今後の課題も見え隠れしている。【ワシントン鈴木一生】
「米国一国では対抗できず」連携強化

「中国や他国と競争して 21 世紀を勝ち抜く」。バイデン大統領は 28 日、就任後初の議会演説で、中国や習近平国家主席を頻繁に登場させて対抗意識をむき出しにした。

バイデン氏は、3 月に公表した国家安全保障戦略（NSS）の指針で、中国を「唯一の競争相手」と位置づけた。トランプ前政権は 2017 年の NSS で中国とロシアを併記して競争相手と捉えていただけに、より中国に傾注した形だ。

実際にバイデン氏は 3 月中旬、就任後初めて主催する多国間の首脳会合として、米国、日本、オーストラリア、インド 4 カ国でのサミットを選択。「クアッド」と呼ばれる枠組みで、前政権で外相会合にとどまっていたものを首脳レベルに格上げしている。米政府高官は「いかに米国がインド太平洋地域を重視しているか内外に示す意味がある」と打ち明ける。

その後も、ブリンケン国務長官とオースティン国防長官が日本と韓国を訪れ、外務・防衛担当閣僚協議（2 プラス 2）を続けて開催。4 月 16 日にはワシントンで日米首脳会談を実施し、日米同盟をインド太平洋地域の戦略の中核に据える方針を鮮明にした。

Vocabulaire du texte 12

→ Traduire jusqu'« この辺では」».

遍路	へんろ
愛媛県	えひめけん
西条市	さいじょうし
横峯寺	よこみねでら
四国霊場第六十番礼所	しこくれいじょうだいろくじゅうばんふだしょ
駐車場	ちゅうしゃじょう
標高	ひょうこう
住職	じゅうしょく
亀山さん	かめやまさん
不思議	ふしぎ
狸	たぬき
化かす	ばかす
狐	きつね
一本道	いっぽんみち
辿り着く	たどりつく
芦原	あしわら
河原	かわら
仕業	しわざ

Source :

田中康弘『山怪（弐）山人が語る不思議な話』（ヤマケイ文庫・2020年）

Texte 12

遍路ころがし

愛媛県西条市にある横峰寺は四国霊場第六十番札所である。駐車場からは南方に西日本最高峰である石鎚山を望むことも出来る標高七五〇メートルの山寺で、住職の亀山さんに話を聞いた。

「私は不思議な体験はありませんが、おじさんは狸に化かされたらしいです」

「狸ですか？ 狐じゃなくて」

「狸ですね。里のほうで歩いておったら道が急に分からんようになりましてね。本人は一本道をどんどん歩いとるつもりなんですけど、いつまで経ってもどこにも辿り着かない。気がついたらそこは芦原なんです。いつの間にか河原におって、芦原の中をぐるぐる回っておったんです。こういうのは狸の仕業やと言われますね、この辺では」

人に悪意ある悪戯を仕掛けるのは圧倒的に狐だと言われるが、四国では狸が相当のワルらしい。y

